

# チーム医療における臨床心理職

平成22年12月9日

オブザーバー

日本大学文理学部心理学科

(一般社団法人日本臨床心理士会 副会長)

津川 律子

# 1. 医療における臨床心理職の現状

➤「臨床心理士」は全国に20,375人

[2010年10月29日現在]

➤約6,000名の臨床心理士が医療保健領域で働いている。

[一般社団法人日本臨床心理士会(会員数17,067名、組織率83.8%)における会員動向調査からの推定]

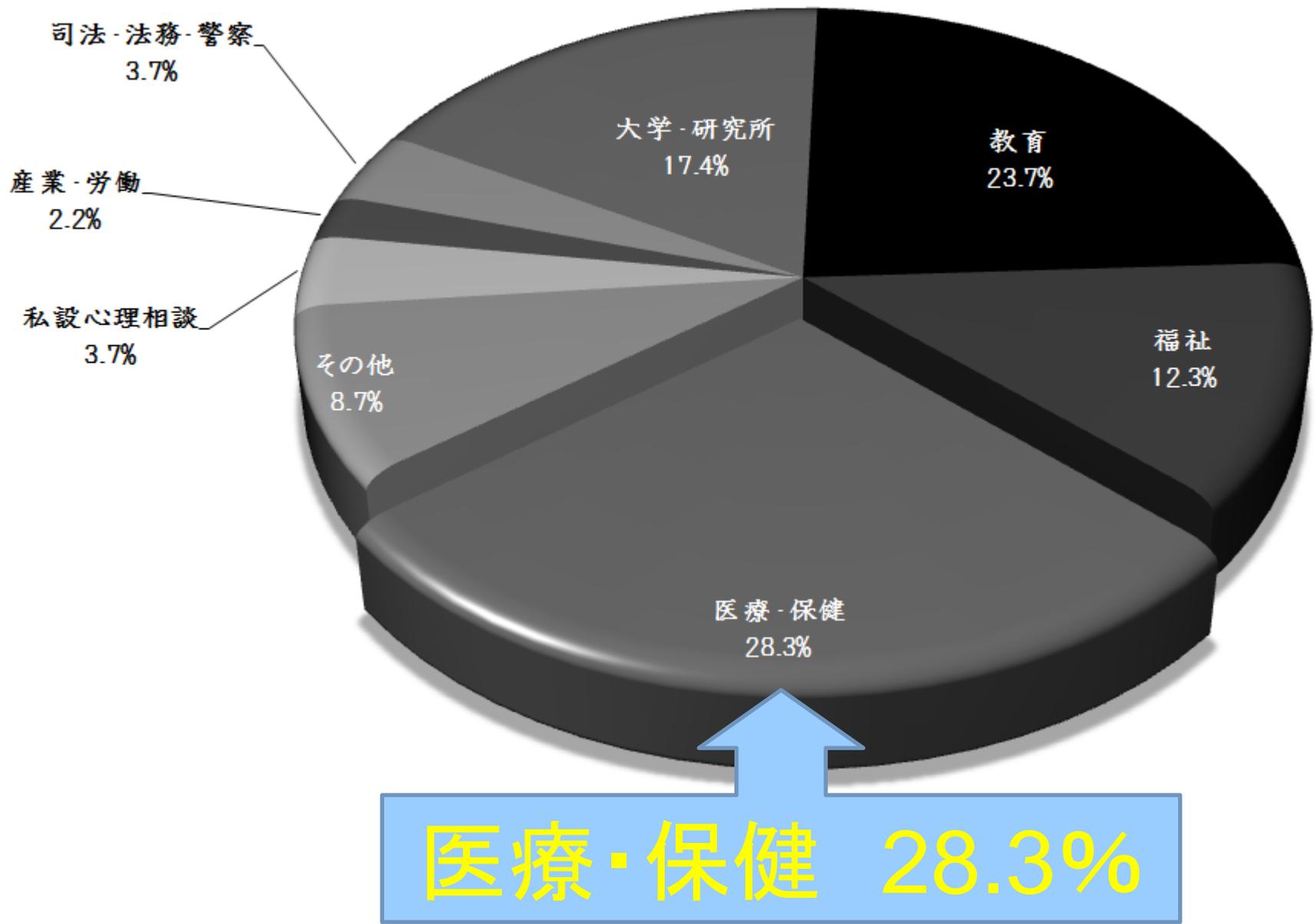


図1 臨床心理士の勤務職域

- 医療の急速な高度化・複雑化。慢性疾患、進行性疾患などの療養に伴うメンタルヘルスの問題は増加している。
- 心理的な問題は、精神科や心療内科に留まらず、医療保健に関する全分野に認められる。
- さらに、疲弊する医療人のメンタルヘルスを支える存在としての臨床心理職の役割も期待されている。

# 表1 診療科別臨床心理士人数(複数回答)

診療科	人数	診療科	人数
精神神経科	728	産科	16
児童精神科	33	緩和ケア科	15
心療内科	195	総合診療部	11
神経内科	88	療育センター	11
循環器・呼吸器内科	34	救命救急センター	9
血液内科	27	周産期母子センター	9
内分泌・代謝内科	27	医療相談室	9
消化器内科	25	皮膚科	8
腎臓内科	10	眼科	6
内科	9	遺伝子医療部	3
腫瘍内科	8	歯科・口腔外科	2
小児科	141	麻酔科	2
リハビリテーション科	57	ICU	2
外科	34	ペイン科	1
脳外科	31	大学病院	4
婦人科	28	企業内病院・診療所	4
耳鼻咽喉科	20	その他	20

精神科だけではなく、幅広い診療科に勤務しています。

表2 疾患別担当経験者数(複数回答)

	人数	%
気分障害	891	(79.2)
人格障害	858	(76.3)
統合失調症	812	(72.2)
広汎性発達障害・ADHD	759	(67.5)
認知症	473	(42.0)
脳血管障害	310	(27.6)
がん	231	(20.5)
糖尿病	217	(19.3)
視覚障害	117	(10.4)
遺伝子疾患	102	(9.1)
不妊	76	(6.8)
筋ジストロフィー	70	(6.2)
白血病	66	(5.9)
HIV/エイズ	45	(4.0)
臓器移植	24	(2.1)
その他	174	(15.5)

身体疾患の患者さんの心のケアにも、多くの臨床心理士が携わっています。

\* 表1・表2は、日本臨床心理士会が2006年に行った医療保健領域に関わる臨床心理士に向けた調査(回答数1,125名)より。

## 2. チーム医療において臨床心理職が配置されるメリット

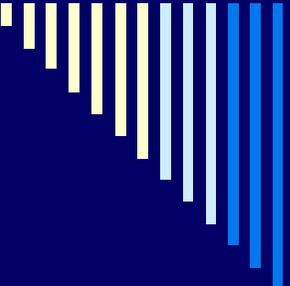
- 国民は医療において、身体面でのケアのみならず心理面での適切なケアを望んでいる。
- 臨床心理職がチーム医療に入ることによって…
  - ・患者及び家族の**満足度**が高まる。
  - ・患者及び家族の不安が軽減することで、**主となる疾患の治療に良い影響**。
  - ・チーム医療の**安定度**が増す。

## ➤ がん診療連携拠点病院の整備に関する指針

「緩和ケアチームに協力する(中略)医療心理に携わる者を1名以上配置することが望ましい」

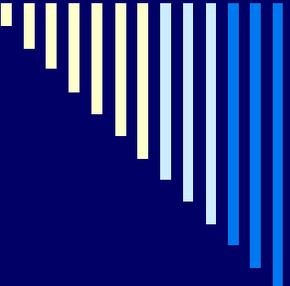
## ➤ (財)日本医療機能評価機構の評価項目

「7.3.2.1 退院に関して患者・家族の意向を尊重した支援計画を立てている①及び②は略、③多職種(医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士、薬剤師、栄養士など)による検討がなされている ④は略」など



## 事例

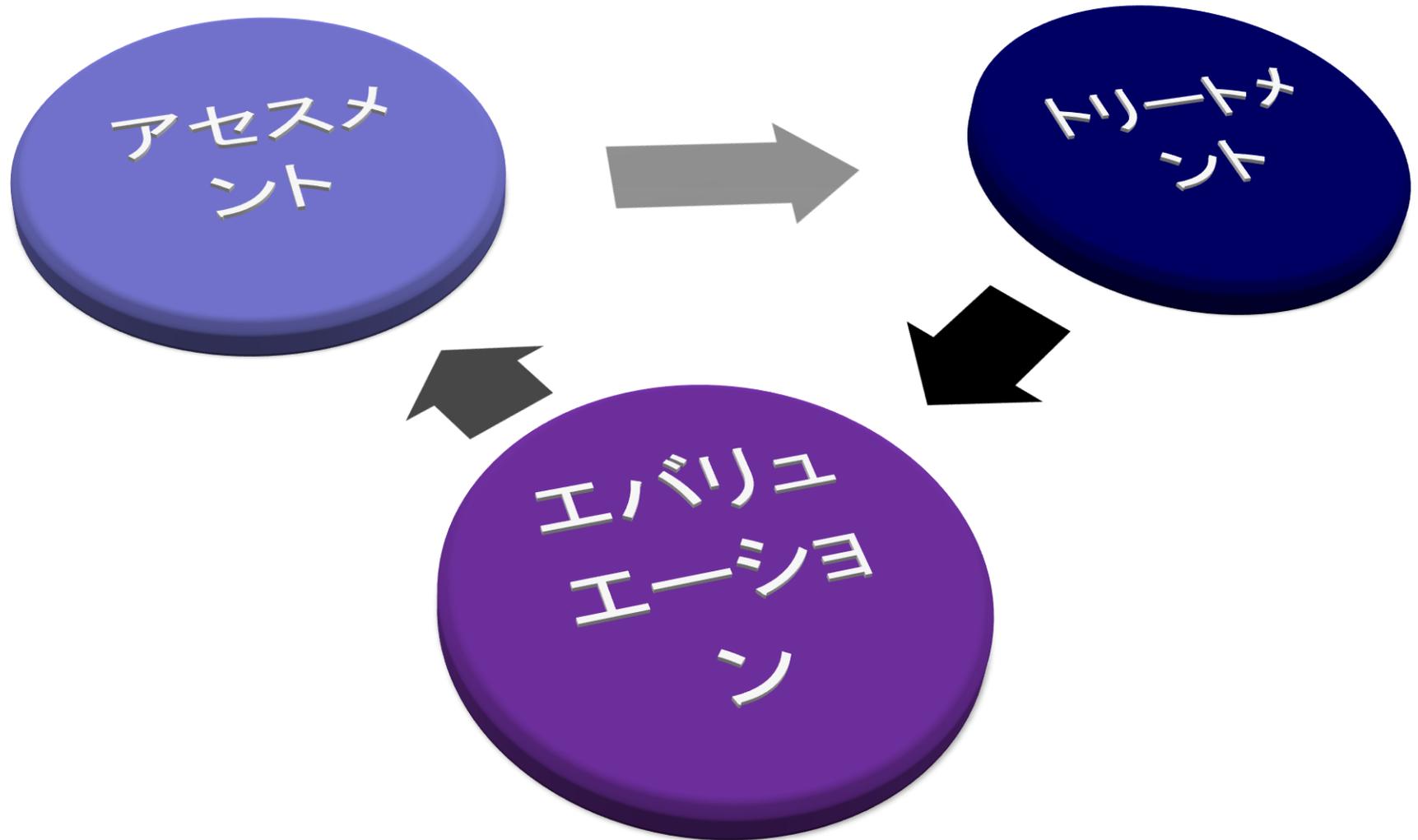
- 某総合病院 整形外科 入院患者
- 手術は成功。しかし、予後が不調。
- リハー一進一退。家族仲よし。友人多し。
- 入院が長期化。同室者とのトラブルも発生。
- 精神科医による診察。抗不安薬が処方。
- 体調も事態も改善せず。
- 複数科の医師の依頼でリハ会議に臨床心理士が参加。



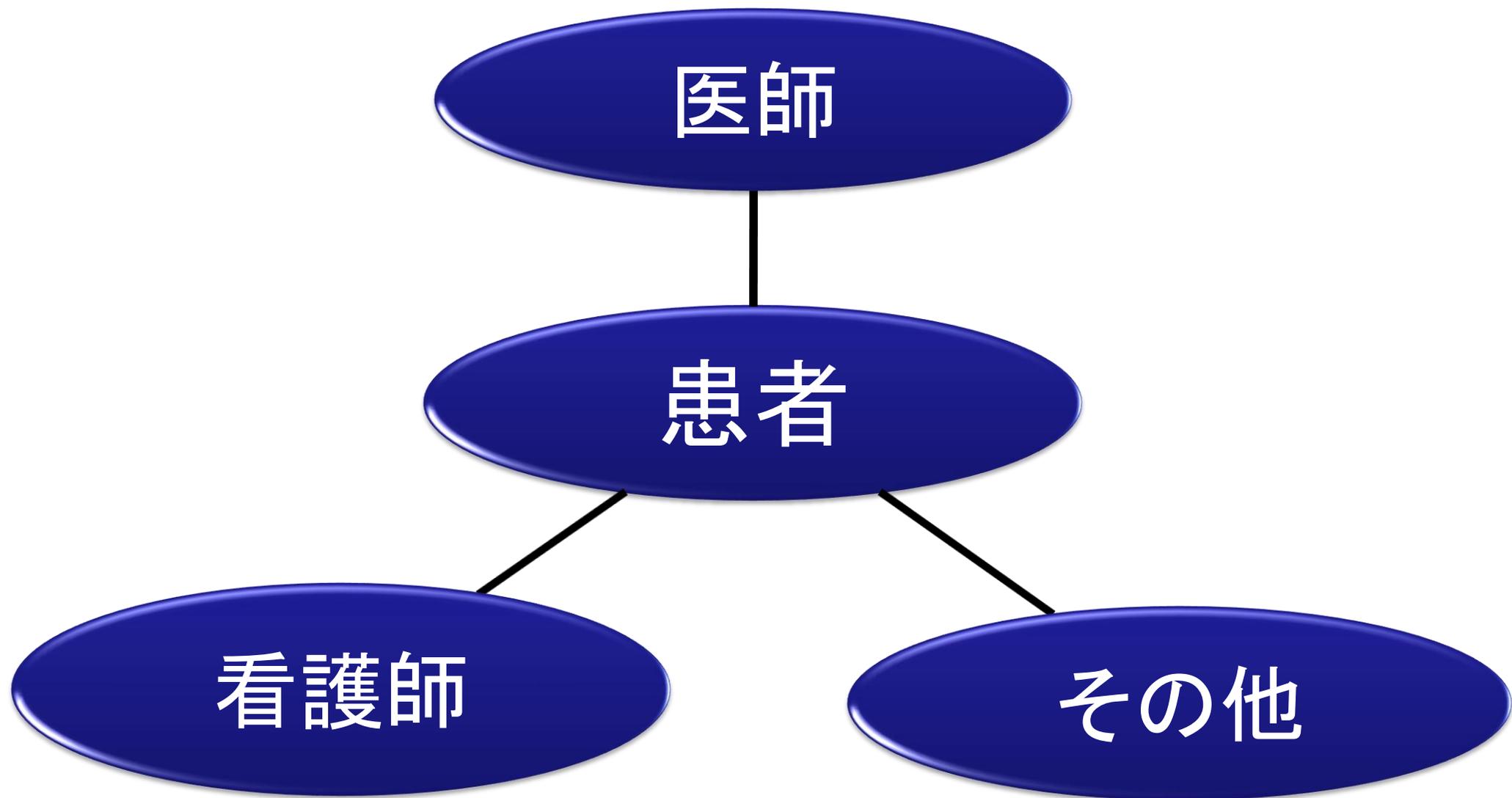
## 事例の続き

- アセスメント(なぜこのような事態になっているのかという臨床心理学に基づいた仮説)
- トリートメント(実際の介入を含む心理的支援)
- エバリュエーション(何がどこまで改善して、何は課題としてまだ残っているかを確認)

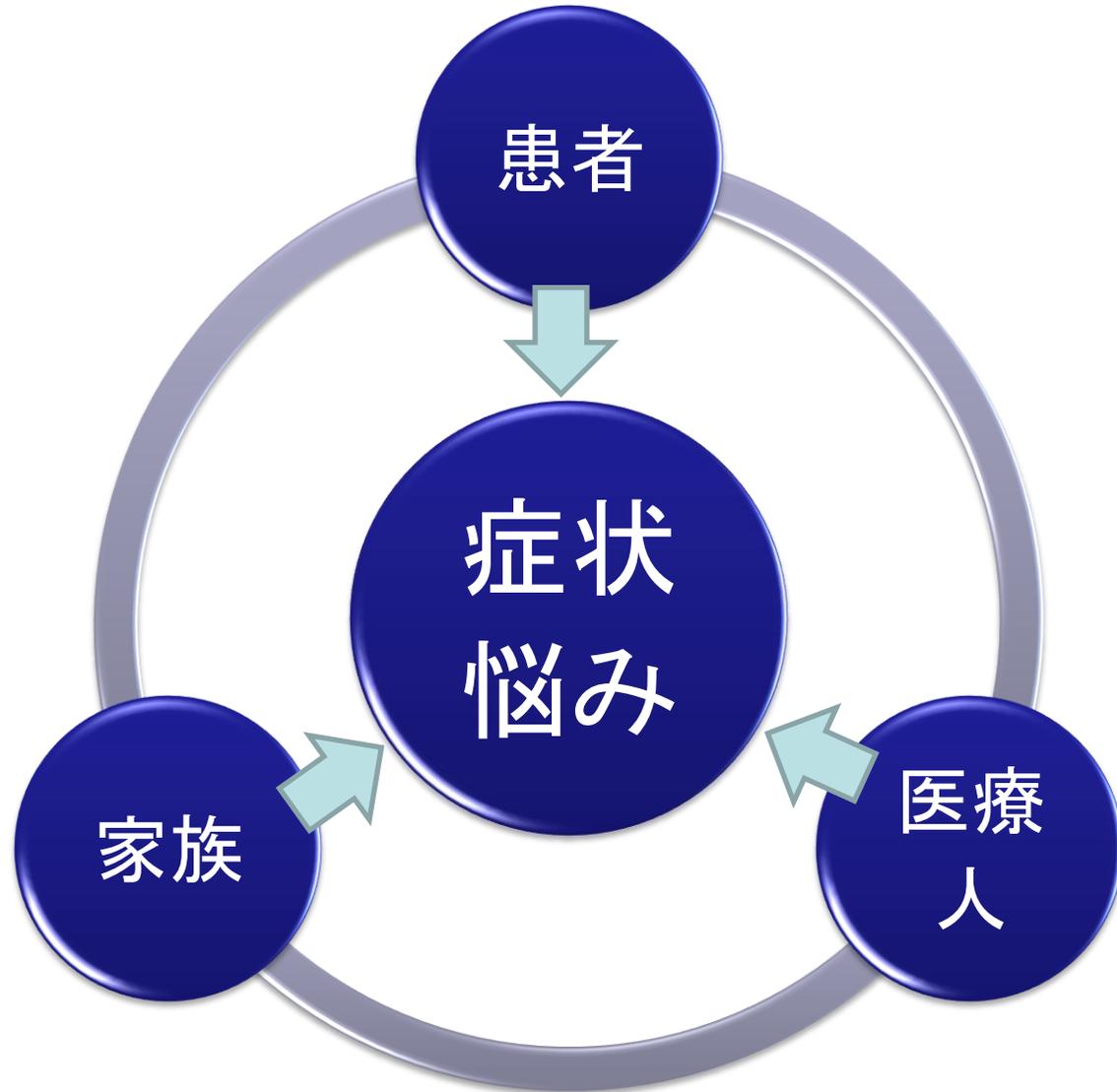
# 臨床心理職が行っていること

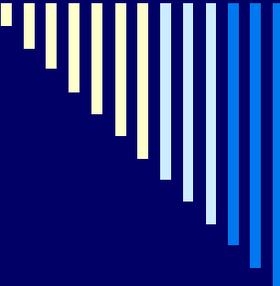


チーム医療は、こう思われているが...



# 本当のチーム医療は！





## 事例の解説

- 対応に苦慮していたケース。
- 臨床心理士による心理アセスメント(患者に何が起きているのかが分かること)により医療チームが安心する。
- 臨床心理士による心理的支援が加わることで、他のメディカルスタッフの負担が軽減する。
- 患者や家族も心理面での専門家の登場で安心する。

# 各科における臨床心理職

## ➤ 例えば、小児科の場合

無菌室支援、慢性疾患の心理支援、発達障害の早期発見及び早期療育、呼吸の機械や点滴などからの離脱の不安etc

## ➤ 例えば、脳外科の場合

手術前後の心理状態の査定、術後おこってくる脳の統合機能障害への対応etc

・・・各科別に書けばキリがない。

# 心理検査、心理療法、心理カウンセリング

## ➤心理検査

現在、診療保険点数が認められているものだけでも、85種類以上ある。

## ➤心理療法

認知行動療法（CBT）だけでなく、多数のアプローチや技法がある。

## ➤心理カウンセリング

病状に合わせた現実的な支持的な方法。

# 3. 医療における臨床心理職の課題

## ➤ 現在の課題・・・

- ・臨床心理職の配置がゼロである医療機関が多い。  
地域格差が大きい。

⇒国民にとって臨床心理職による心理面の支援が平等に受けられない現状。

- ・国家資格化が遅れており、診療保険点数での評価が難しい。

⇒医療現場での安定した雇用につながらない。

## ➤ 課題への対応案・・・

- ・各職種の専門性を活かしたチーム医療を推進する政策の展開のなかで、質の高い臨床心理職の養成基準を示す資格法を整備し、**国家資格**をもった職種として全国の保険医療機関において**適正配置・適正数確保**を図ることが急務。
- ・国民が全国どこにいても平等に臨床心理学に基づいた**心理面での支援**を受けられるような施策が望まれる。

# チーム医療における臨床心理職

- ▶ 役割・・・ 心理検査、心理療法、心理カウンセリングのみならず、患者やその家族そして医療人を心理的に支える臨床心理学に基づいた専門職。
  - ▶ 効果・・・ 患者本人の安定だけでなく、家族、チーム医療全体の安定。
- 何より、主となる疾患の治療に良い影響がある。

日本に生活する者すべてが、地域格差なく、安心して、**心理面での支援**が受けられる国の方策を心よりお願い申し上げます。

その具体例のひとつとして、本WGで作成される「チーム医療の取り組みの指針となるガイドライン」に他の多くの職種とともに「臨床心理職」が存在していることの明記と、心理的支援の専門職として役割を担っていることへの言及をお願い申し上げます。